

歯科インプラント治療

～津山歯科医師会～

歯科の最新の治療方法、インプラント治療についてお話しします。

今回はどのような治療方法なのかをお話したいと思います。

不幸にして歯を根ごと抜かなければならなくなった場合、その抜けた部位を治療してかめるようにまた見た目にも回復する方法は従来からあります。

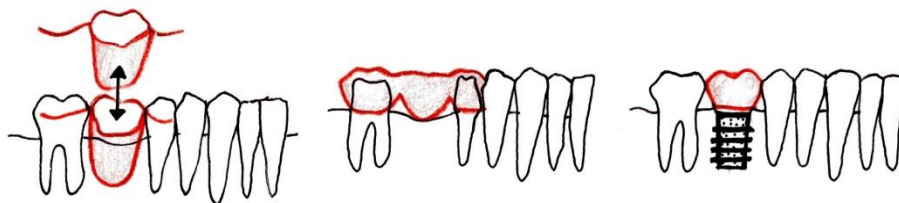
欠損した部位に隣接する歯を利用して取り外さない固定式の人工の歯をはめるブリッジ、着脱式で残っている歯にクラスプと呼ばれる針金で取り付ける部分床義歯です。

この二つの方法は、現在でも症例にあわせて選択され多用されている一般的な治療方法です。

ブリッジは隣接する歯に固定するため、健全な歯であっても削らなければならないという欠点があります。また、部分床義歯ははめ心地があまり良くなく慣れるまでに時間がかかる、針金の部分が見た目によくないといった欠点があります。

以上の二つの方法と全く発想を異にした方法がインプラント治療です。

顎の骨の中に人工歯根を埋め込んで、歯が抜ける前と同じような構造を作ってしまうという方法です。



部分床義歯

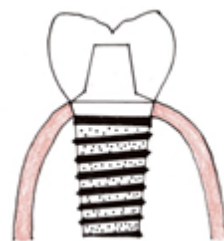
ブリッジ

インプラント

本来の歯の根は歯槽骨の中に埋まっていますが、骨と密着しているわけではありません。骨と歯根の間には歯根膜という糸状のものがあり、両者をつないでいます。

インプラントは骨と結合しており歯根と全く同じ構造ではありませんが、他の部分を利用することなく、残っている歯に何の負担もかけずに欠損した部位に単独でしっかりと人工の歯をつけることができます。

従来の二つの方法の欠点を補うことがインプラントでは可能です。



インプラント

構造としては、骨の中にしっかりと埋まっているインプラント部分の上に人工の歯が付いた形態をしています。

骨の中に埋め込まれた部分をインプラントと呼びますが、現在は強度があり生体親和性が高く骨と結合するチタン、あるいはチタン合金が材料として使われています。

骨の中に金属を埋め込むため、制約もあります。

インプラントを埋め込む部位に骨が十分存在しない場合は、治療が困難です。特に上顎は上顎洞という骨の空洞があり、骨の確保が難しい場合があります。（現在では骨を作る手術を行うことも可能です）

顎骨の中には血管や神経が通っており、それらを避けてインプラントを埋め込まなければなりません。レントゲン検査、CT検査などで精査したうえで慎重に手術する必要があります。

他の歯科治療と異なり手術を伴う治療のため、全身の病気がある場合や服用している薬によってはインプラント治療が適さないこともあります。

インプラント治療は、骨に金属を埋め込む手術を伴う高度な技術を必要とされる方法であり、現在は保険診療の適用ではないため全額が患者さんの負担となる自費診療となります。

インプラント治療は、改良が重ねられて臨床成績が向上した1980年代になって世界的に知られるようになった最先端の歯科治療です。歯のなくなった部位に、元の歯とほぼ同じ状態で歯ができる夢のような治療方法と言えるかもしれませんが、実際にはインプラント治療に適するケースばかりではありません。実施には十分な検討が必要です。

お問合せ先：津山市健康増進課 TEL 0868-32-2069